

台風・津波発生時に島民・観光者を守る視点の気づき

今回、私は式根島スタディーツアーに参加し、防災の視点から島中を巡ってみた中で、気づいた点や疑問に感じた点がいくつかあった。これらの点から、島民や観光者らが安心・安全な離島生活・体験を営むためにどのようなことができるかを考えていきたい。

最初に、島の避難場所にも指定されている小学校・中学校を訪れたのだが、その道中で気になった点が一つある。出発地点のレンタサイクル店から学校までの道は少し入り組んでいて道に迷いそうになることもあったものの、間隔を置いて道路に学校への方向と距離を示す案内が書いてあったため助かっていた。しかしながら、いよいよ学校まで迫ってきたというくらいの地点から、案内を見かけることがめっきり無くなってしまったのだ。マップを参照しつつも、マップ上には記載されていない分かれ道が所々現れたため、最後の最後で勘に頼ることとなった。島民の方はほとんど迷うことはないと思うが、観光中に避難する必要が生じた際に観光者たちは困るのではないかと感じた。

次に、式根島港を通り松が下雅湯へ向かった。港には海拔と波の危険度を示す標識が貼ってあり、それによると過去の台風時に波が付近のエリアまで到達したとのことだったため、台風時や津波発生時には温泉の利用客などはひとたまりもないのだろう。そんな中、近くには避難路として山への階段が設置されていたため、上述したような場合の唯一の救命手段なのではないかと思い、実際に登って道を体験してみることにした。しかしながら、山を急遽切り開いて作られたようで、道は非常に狭いため一度に通ることができる人数は非常に限られるだろうという点や、道があまり整備されておらず険しい足元と群がる蜘蛛の巣・蜘蛛の数々という点などから、緊急時の活用は非常に厳しいのではないかと感じた。せっかく道が用意されており、付近の唯一の避難路であるので、幅の増加や定期的な道の整備はコストがかかっても行われた方がいいのではないかと考えた。

これらの点から、避難経路の面から改善できることはまだたくさんあるのではないかと思う。加えて、電気や水などのインフラ、観光者への規制方法・案内など、災害発生時を想定して島民内で枠組みとフローを考えておくべきこともまだあるように感じる。一方で、まちの機能が特に集中する島中央部はどこも標高が高く、波には飲み込まれないようにうかがえた。今回のツアーは私にとって初めての式根島体験であったため、事前知識はほとんどなかったが、島元来の強み・魅力はたくさん感じた。動線を整備するなどしてそれらの点をより活かし、島民と観光者がより安心・安全に過ごせるようにされると良いのではと思う。